



# KN グローカルリサーチレポート

2019年6月  
No.38

初夏の陽射しを浴びた夏野菜が、店頭に並んでいます。  
地元の旬の野菜が美味しい季節です。

## 浜松市の農業産出額 全国第7位

浜松市の農業産出額は 512.1 億円と、全国第 7 位となっている。トップは田原市で第 9 位が豊橋市などから、遠州から渥美半島にかけての一带は、日本有数の農業地帯である。

■表1 農業産出額(単位:億円)上位9市町と、総農家数(単位:戸)、農業就業人口(単位:人)

市町	産出額	1位部門	2位部門	3位部門	総農家数	農業就業人口
1. 田原市(愛知県)	883.3	野菜 339.6	花き 302.7	豚 87.4	3,913	9,114
2. 都城市(宮崎県)	771.5	豚 221.4	肉牛 191.0	ブロイラー 155.8	6,581	5,867
3. 銚田市(茨城県)	754.1	野菜 423.5	豚 146.8	いも類 117.1	3,301	6,015
4. 別海町(北海道)	646.7	生乳 474.6	肉牛 15.5	畜産物 1.5	761	2,133
5. 旭市(千葉県)	581.9	豚 206.6	野菜 196.4	鶏卵 55.6	2,539	4,593
6. 新潟市(新潟県)	579.8	米 309.7	野菜 162.3	果実 33.9	11,253	15,257
7. 浜松市(静岡県)	512.1	果実 159.7	野菜 150.5	花き 64.8	11,945	11,576
8. 熊本市(熊本県)	457.9	野菜 239.6	果実 65.8	米 49.5	6,649	10,435
9. 豊橋市(愛知県)	457.8	野菜 261.7	豚 38.9	果実 26.3	4,779	7,651

「2017年市町村別農業産出額」、「2015農林業センサス」などから作成

浜松市は、総農家数も全国 1 位 (11,945 戸)、農業就業人口も全国 3 位 (11,576 人) である。

近年の浜松市の農業産出額は約 500 億円前後で推移しており、果実(「みかん」など)と野菜(「たまねぎ」、「だいこん」など)が産出額全体の、それぞれ約 3 割を占め、花き(「ガーベラ」、「きく」など)が約 1 割、畜産(「肉用牛」など)が約 1.5 割となっている。

■表2 浜松市の農業産出額の推移 単位:億円

	H26	H27	H28	H29
果実	151.7	163.9	177.2	159.7 (31.1%)
野菜	122.6	130.8	146.7	150.5 (29.4%)
花き	68.0	68.8	69.0	64.8 (12.6%)
畜産	81.3	83.5	77.8	77.6 (15.1%)
加工	3.7	3.2	3.1	3.4 (0.6%)
合計	483.9	510.4	532.9	512.1

「市町村別農業産出額」より作成

## 浜松市農業振興ビジョン

浜松市農業振興ビジョンのQRコード



2019年4月1日から6年間の「浜松市農業振興ビジョン」がスタートした。このビジョンでは「チャレンジ・工夫で『もうかる農業』を実現する」を基本理念に掲げ、「小規模から大規模まですべての農業者が収益を上げることにより、農業が持続的に発展し、これにより市民も安心して豊かな食を楽しむことができる」としている。

本ビジョンは「営む力」、「売」る力などの5つの基本方針と、17の基本施策から成る。2019年度予算でも、「農業経営塾開催事業(422万円)」、「6次産業化やブランド化の「未来を拓く農林漁業育成事業(3,754万円)」、「海外販路拡大事業(914万円)」、「ICTを活用した「スマート農業推進事業(568万円)」などの具体的な施策が推進されている。

## アクティブラーニング ～米国HighScope幼児教育カリキュラム 視察記～ (No.2)

### 【「無償化」から「質の確保」へ】

5月の国会で、幼児教育・保育の無償化を定めた「改正子ども・子育て支援法」が可決・成立し、消費税の引き上げ分を財源として、今秋から実施されることになった。

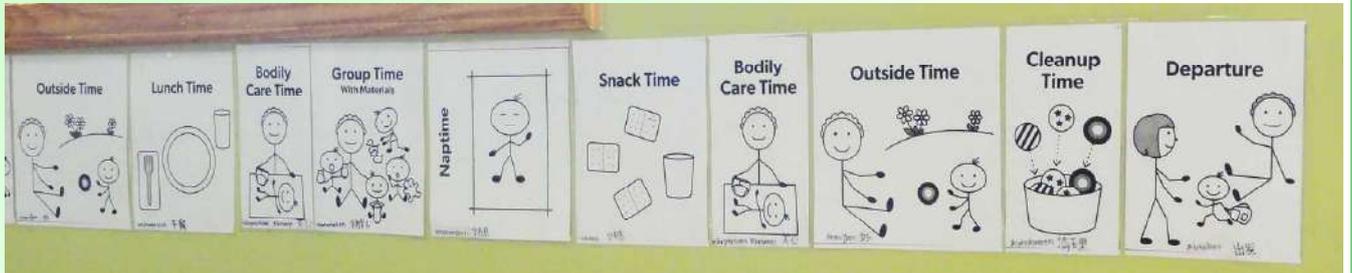
今後は、どの園でどのような内容の幼児教育や保育がなされているか、すなわち、質の高い幼児教育や保育を提供している園が選ばれるようになってくる。

### 【「質の確保」とは？】

厚労省の『保育の質の確保・向上に関する検討会』の座長を務める日本保育学会の汐見会長によると「子どもたちが自分で決めたことに取り組む主体性や、他者とのやり取りの中で自分の意見を作っていく対話のプロセスが大事だ」と述べている（静岡新聞5月14日より）。果たして、3～5才の子どもたちは、このようなことができるだろうか？

### 【HighScope の Daily Routine】

HighScopeでは、子どもたちは「Daily Routine」として、ほぼ毎日同じ日課を過ごす。教室の壁には、絵で描かれた時間割が貼ってあり、子どもたちは、「今、自分は何をする時間なのか」確認できるようになっている。これは、日本の特別支援教室で見かける、「時間」という目に見えないものを可視化する手法と同じである。



### 【HighScope の Plan-Do-Review】

HighScopeカリキュラムでは、『自ら考えて計画し、それを実行し、そして振り返る』=『Plan-do-review』が日課に組み込まれている。

子どもたちは、時間割の「Planning Time」（10分程度）で、これから何をして遊ぶのかを先生や友達に話し、「Work Time」（50分程度）でその遊びをし、「Cleanup Time」で片付けをして、「Recall Time」で自分がどんな遊びをしたか、皆の前で発表する。これを毎日繰り返すことで、1年も経つと、計画した遊びと実際の遊びが一致し、さらに、遊びについても「今日はここまで」と進捗を管理できるようになると言う。

今回の視察では、子どもたちが先生の前に輪になって集まり、一人一人順番に、何をして遊んだのかを発表し、その発表を聞いている場面を見ることができた。HighScopeカリキュラムではこの『Plan-Do-Review』を5才までにできるようにしてしまう。米国では、このような教育が、既に1960年代から行われてきているのである。（次号に続く）

執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士  
(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長  
浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org